

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で、お一人ひとりが育んできた暮らしの「継続」を理念として新たに加え、独自の理念をつくり日々のケアに活かしている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新しく職員となった介護職員を含め全員へ理念の説明を十分に行い、玄関、食堂などに掲示し、思いを共有し日々、声を掛け合い取り組んでいる。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	事業所独自の「ふる里と共に・・・」という理念を、玄関入り口に掲示し、ボランティアや、ご家族など訪問された方々へ説明を行い、理解していただいている。	
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣に民家は少ないが、散歩時に近所の方と共に季節の花々を觀賞したり、つくしを取ったりと、日常のお付き合いが少しずつ増えてきており、ご利用者ご自身が事業所へお誘いする、等の交流が自然に始まっている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	民生委員や、ボランティアの方々からの情報で、文化祭やコンサートへ出かける機会が増えている。又、地域の方をお誘いしての事業所での演奏会や演芸などを定期的に行っている。	今後は、地域活動への参加等、地元の方々との交流づくりをして行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議などで、地域の高齢者の暮らしや活動の情報を訊ね、ご利用者の社会参加への機会や、事業所として地域に貢献できる事はないか、話し合いを重ねている。		一人暮らしのお年寄りとの交流や、近所のごみ拾い、海岸の清掃などを検討中で、出来る事から始めていきたい。
こ				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりが自己評価票を作成し、ミーティングで課題について話し合い改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご利用者代表、ご家族代表、民生委員、地域包括センター、ケアマネージャー、介護職員、管理者が参加し、事業所での現状報告（ヒアリハット報告、入退去、行事報告など）を行い、そこでの率直な意見は多いに、質の向上に活かされている		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者らと運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	社会福祉協議会担当者との交流は深まり、立ち寄られた際は具体的なサービスへの意見などを聞いている。		今後はより積極的に、町の窓口などを訪ね、地域と共に事業所の質の向上に取り組んでいきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員全員は、定期的な勉強会を通して学んでいる。又、パンフレットを準備し必要な際、ご家族へ手渡せるようにしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員による虐待防止のため、特定の入居者からのストレス（暴言・同じことを繰り返し聴くなど）を継続的に受けないように、職員の勤務分担に配慮をして、ストレスの軽減を図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだし解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ご利用者やご家族へ、十分な納得が得られるよう説明を行っている。不安や疑問点があった場合の窓口としてケアマネジャー、管理者は気軽に聞ける体制を取っている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者や職員は、日頃からご本人の意見を重視するよう務めている。外部からの面会やボランティア訪問時には、プライベートな空間をつくり ゆっくりと話ができるよう配慮している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>季刊誌として、「にこにこ便り」の中で報告している。又、面会時には必ず近況報告を行い個々にあわせた対応をしている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会や面会時に、意見を聞く機会を設け、運営推進会議への参加を促しそれらを運営に反映させている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者は日頃、職員と共にケアに従事しており職員の提案や意見を共に検討し運営者に伝え反映させている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>受診日や、ご本人、ご家族希望の外出支援がスムーズに行えるよう 勤務調整を行い、柔軟に対応できるよう務めている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者にとって馴染みの関係の継続の為、ユニットの合同行事なども取り入れて馴染みの関係を構築している。夜勤者などは兼務の為、全ユニットを把握している。併設の老人保険施設との職員交代も最小限に行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>基本的人権を尊重し、差別や偏見無く公正な職場環境作りを行っている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権尊重の見地から、研修の機会を設けている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者、職員、新人職員など段階に応じ、内外の研修、勉強会に参加し、育成を行っている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>現在、職員が、自主的に地域の施設を見学させていただき、当施設のより良いサービスの提供に反映させている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩室として確立されたスペースはないが、更衣室を兼用として、休息時に利用している。また、日頃より職員との対話に心掛け、健康面はもとより精神衛生面においても変化に気を配っている。</p>		再度、ストレスの軽減の為の環境作りの検討を行う
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている</p>	<p>各職員の状況を把握し、無理のない勤務計画の作成に努めている。また、健康状態にも留意し、体調不良時においては、職員の交代などで対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>日常のケアの中でご本人との信頼関係の構築を大切に、常に表情や行動から不安や求めている事に気づき、受け止める努力をしている。</p>	
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面会時や家族会に於いて、必ず入居者の近況報告を行うと共に家族が困っている事、求めている事を話す機会をつくっている。</p>	
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まですべて必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>「その時」にサービス支援が可能かどうか見極め、事業所としてできない事であれば市町村の窓口で相談できる限り意向に添うよう支援している。</p>	<p>事業所としては前例がないサービスであっても必要としている支援であれば、運営者と相談してサービスを増やして行きたい。</p>
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人が納得したサービスであっても、提供者本位の押し付けにならぬよう開始する際は本人が安心して喜んで利用できるようゆっくりと支援している。</p>	
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は入居者と共に過ごし家族のように支えあう関係が大切である事を体感し、干し柿作りやつくしの料理法など学び支えあう関係を築いている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	”ご本人を共に支える”というご家族との関係が少しずつ定着し、面会時や電話などでも話す時間が増え交流を深めている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	ご本人ご家族の希望による外出、外泊が増えより良い関係の継続に努めている。又ご家族を招待する定期的な企画や家族希望の個別企画も計画中である。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	地域に暮らす馴染みのボランティアが週に一度程、訪問され、継続的な交流が出来るよう支援している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わら合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となって支援している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後、入院や、他施設などへの面会を行っているが、ご利用者同士の継続的關係への支援は充分ではない。		今後、ご家族への継続的な関わりを含め、大切に取組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1.一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日頃の会話の中から、ご本人の思いをキャッチし意向の把握に努めている。困難な場合には、ご家族から情報を得ながらご本人の立場にたって検討している。</p>	
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前の面接時から、生活歴 環境などを出来るだけ聞き取り把握し、愛用品などを持ち込み安心してご本人様のこれまでの生活を継続できるように支援している。入居後も、引き続き情報の把握に努めている。</p>	<p>必要に応じてプライバシーに配慮しながらセンター方式の私の暮らし方シートを使用し情報収集を更に進めていきたい。</p>
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>必要に応じてセンター方式を使用しながら利用者の一日の流れ、状態を把握し自立支援に努めている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ご本人・ご家族の意向を尊重しながら担当者会議を開催し関係者と話し合い確認を取りながらプラン作成を行っている。</p>	
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>必要に応じてカンファレンスを行い変化が生じた場合は、再アセスメントを行い現状にあったプランに変更し、対応を行っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践 結果、気づきや工夫を個別記録に記入し 情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態を日々記録し、情報を共有しながらカンファレンスなどを行い必要に応じてケアプランに反映させている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人・ご家族の意向を尊重しながら入居前後の受入を支援している。理美容サービスや合同レク企画など協力支援をしている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化 教育機関等と協力しながら支援している	地域の様々なボランティアの協力を受けている。消防の訓練指導など受けている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネジャーや事業所と、サービスについての利用法など相談し情報を得ながら支援している。		他の事業所のご利用者同士の交流はまだ少ないので、今後は機会をつくって行きたい。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議等において、必要に応じて相談・アドバイスを頂いている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人とご家族の希望を聞き、かかりつけ医を決めている。又、受診の状況はご家族へ報告し適切な医療を受けられるよう支援している。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ご家族の要望があれば専門医の診断が受けられるよう支援している。又、併設の老健には専門医が常勤であり、職員が気軽に相談できる体制がある。		
47 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	24時間対応可能な看護職員が日常の健康管理や医療活用の支援を行っている。ご利用者ご自身とも気軽に相談できる馴染みの関係が築けている。		
48 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご家族と医療機関との連携を取りながら、情報交換を行い入院による混乱を出来るだけ防ぎ、スムーズな退院となるよう支援体制をつくっている。		
49 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早期に、ご家族、医療機関の三者で対応方法を協議し、方針を共有している。		
50 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化が予想された場合には、ご家族やかかりつけ医と相談し対応しているが、備えた準備は出来ていない。		今後は事業所として「できる事、できない事」を明確にし、ご家族への十分な説明を行っていきたい。
51 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えによるダメージが大きい事を理解しており、介護添書での情報交換や話し合いを十分に重ねている。その際、ペットの位置やトイレへの導線などできるだけ馴染んだ方向になるよう配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員は個人情報保護法について自らの責任を把握しており常に、ご利用者の尊厳の保持に努めるよう支援している。又、地域ボランティアの方々へも説明し、ご理解をお願いしている。</p>	
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたりわかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたい納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>日々の生活の中でご本人に自己決定の機会を意識的に設けている。必要に応じて、説明し自己決定を支援している。</p>	
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの生活のペースを職員は共有しており起床時間や、夕食後の団欒の時間など、ご本人のペースで過ごされている。日中も特に予定を決めず希望を聞き、ご利用者本位に過ごせるよう支援している。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるよう努めている</p>	<p>日々の衣類選び、外出、行事時の化粧など、ご本人の好みで行えるよう支援している。理、美容はご家族と馴染みの店へ行く方が増えている。</p>	
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食材を厨房と一緒にとりに行く事から始まり職員はお一人ひとりが得意な作業を見極め、準備、食事作り配膳など共に協力しながら行っている。また食事会の企画の際は、メニュー決め、買い物も実行している。</p>	
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>おやつはご利用者と共に手作りのものを作っている。好みのお菓子を提案される事も増え、日中の楽しみとなっている。今現在、お酒、たばこを嗜好される方はいない。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ご本人の自尊心を最大限に尊重した対応を心掛けている。ご本人がパットを自由に使用できるように設置の工夫や下着に尿とパットを使用するなどさげない支援をしている。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人一人の希望を聞きほぼ実施できているが、夜間の入浴実施はできていない。また入浴拒否が続くご利用者に対してはご家族による声かけもお願いしている。		入浴拒否の原因、理由の発見と、ご自宅での暮らしとしての入浴を重視し、時間帯の選択や環境整備の工夫をしていきたい。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の体調、表情、動作などから安心して無理なく一日を過ごせるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の会話や表情、家族との会話の中から、生活歴や楽しみ等みつけ、すぐに実施できる事は実施している。又、役割ややりがい、楽しみとなり継続できるよう支援している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望に応じ、ご家族と相談し所持して頂いている。職員はその大切さを理解しており、買い物の際、使用できるよう支援している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や近所の買い物等は希望に添えるよう支援できている。希望をうまく言葉にできない方へは、しぐさ、表情から理解し支援している。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	個別の希望に添って演劇鑑賞、外食、ドライブ等実施できている。ご家族との外出の機会を増やせるよう送迎等の支援も行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、その時に対応している。手紙や年賀状はやり取りが継続できるよう支援している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時は、居心地良く今後も継続して来て頂けるようお茶を出す」等の対応をしているが、立地のせいかご友人等の訪問が少ない。		これまでの馴染みの関係が絶たれぬよう訪問が少ない理由」を把握して支援していきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は勉強会により身体拘束についての内容を具体的に把握している。又その際に受ける弊害と苦痛をミーティングの中で話し合い、現在、身体拘束をしないケアを実践している。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	山の中で横に川があり近くに民家がない環境の中、職員が常に見守る事が出来ない為、又ご家族の要望もあり玄関に鍵を掛けている。職員は鍵を掛ける事の弊害を理解しており見守り可能な時は出来る限り開放している。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	車椅子からの立ち上がりや、歩行等で転倒が予想されるご利用者に対して常に職員はさりげなく見守れる位置で過ごすよう徹底している。夜間時は一人での対応の為、今後ご利用者の状態により検討の必要がある。		現在、夜間時の勤務時間を変更し一人待機の時間を減らし対応している。二階建ての2ユニットの為、今後、ご利用者の安全を確保する為、事業所として検討を重ねている。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	安全確保の為、危険物品のチェックリストを作り毎日確認している。又ご利用者の状態に合わせて、保管場所を工夫している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒアリング報告を徹底し、事故により起こる事態を把握し、お一人ひとりの状況に応じた対策を検討し取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員は定期的な勉強会やマニュアルでの確認を行い、急変や事故発生時に備えている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の老健施設との合同避難訓練を実施し、災害マニュアルを作成、定期的に設備点検を行っている。又、事業所独自で地域の消防署の指導の下、ご利用者参加による訓練を実施した。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族会等でリスクについて話し合いを行い、思いを共有しながら取り組んでいる。又、個別に起こり得るリスクについてはご家族の率直な意見を反映し、支援している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	お一人ひとりの傷病歴を把握し起こりえる体調変化を早期に気づけるよう努めている。異常があればすぐに看護師又主治医へ報告し対応している。		定期的に看護師による勉強会を実施し、知識の向上に努めていきたい。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に処方箋での確認や誤薬を防ぐ為、職員への認識を徹底し服薬後の状況変化はすぐに主治医へ報告している。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の観察はシートを利用し日々行っており、便秘がちな方の把握もできている。又自然便を促し、食事、飲み物の工夫をし、状況に合わせた薬の調節を行っている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後一人ひとりに合った歯ブラシを使用し口腔ケアを行っている。歯科衛生士(ボランティア)の協力もあり、口腔ケアの重要性を職員は理解し、肺炎などを予防する正確な技術を身に付けるよう取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士によるカロリー計算された食材で作っている。糖尿病やアレルギーの方の調節は職員が行っている。お茶は自由に飲用できるよう用意しておりお茶の時間も設け、促している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	看護師指導により感染症の研修を受け、確かな知識の習得と予防に努めている。ご利用者、職員はインフルエンザの予防接種を受け、予防策として、うがい手洗いを徹底しウェルパス、次亜塩素酸を常備し使用している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食事の作り置きは必ず2時間以内とし、生物は当日届いた物を使用している。食材は全て検食分として保管し、食器類は全てアルコール消毒し、生野菜、果物は消毒している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりは常に季節の花を飾っている。又、入り口付近にはソファを設置し月ごとにテーマを変えた貼り絵や飾り物をしている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないよう配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や浴室は家庭的で、落ち着けるよう暖簾をかけたり季節の花を飾ったり工夫している。食事時にはリラックスできる音楽をかけ、自然の風が感じられるようベランダに洗濯物を干している。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、ステーション、食堂にソファを設置しており思い思いに使用されている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	近年入居された方には使い慣れた家具等の持ち込みをお願いし、好みの部屋作りが出来てきている。また居室により差があるが、ご利用者が混乱されぬよう居心地の良い空間作りに取り組んでいる。		
86	換気 空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	立地的に自然環境に恵まれている為、日々外気の入替えは習慣となっている。又、冷暖房は一人ひとりの体調に応じ調節している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや廊下の手すりは設置されているが、食堂、居室、脱衣所には手すりがない為、安全な導線に家具を置くなど工夫している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗があった際は原因や理由を考え、安心して暮らしの継続が出来るよう工夫している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで活動できるように活かしている	食堂、ベランダにはプランターを設置し季節の花を育てている。花の水やりはご利用者が楽しみながら役割としてされている。		

.サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の 2/3 くらいの	
		利用者の 1/3 くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の 2/3 くらいと	
		家族の 1/3 くらいと	
		ほとんどできていない	



グループホーム ふる里

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くない	
100	職員は、活き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の 2/3 くらいが	
		職員の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の 2/3 くらいが	
		家族等の 1/3 くらいが	
		ほとんどできていない	

【時に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

小高い山の中腹を登ると、花々に囲まれた二階建ての白いペンション風の事業所が見える。日常の散歩コースでは、緑豊かな山々を眺め、小川のせせらぎが聞こえる。少し歩くと、眼下には海を一望できるという美しい自然に恵まれた環境にある。園内には農園もあり、ご利用者は野菜づくりを楽しむ事もできる。職員は、”その人らしさの継続”を理念に認知症ケアに取り組んでおり、センター方式を必要に応じ活用し、お一人ひとりの「心からの笑顔」を活力に少しずつ成果を上げている。又地域ボランティアの協力で、気軽に立ち寄れる、開かれた事業所になりつつある。